

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900516		
法人名	社会福祉法人 群生会		
事業所名	グループホーム ひまわり		
所在地	旭川市錦町18丁目2150番地		
自己評価作成日	平成23年9月30日	評価結果市町村受理日	平成23年11月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ひまわりでは家庭的な雰囲気大切に、家事・調理など本人の能力・生活習慣に合わせた生活を提供しています。居室は広く畳があり、落ち着いた生活空間で利用者や家族にも喜んで頂いています。今後も、利用者本意のケアを研鑽し、さらに地域にひらかれ親しまれる施設を目指して行きたいと考えています。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172900516&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年10月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<家族等と事業所の信頼関係の構築>
 家族会の開催や運営推進会議に家族が多く参加できるような呼びかけを行い、事業所の取り組みや日常生活の様子、健康状態等情報提供し、意見や要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映するよう努めている。また、管理者・職員のケアの実際について情報を発信し、気軽に相談できるように取り組んでいる。

<職員を育てる取り組み>
 段階に応じた新人職員研修とフォローアップ、年2回の個人面談やスタッフミーティングを通じて職員の意見を採り入れた業務改善や要望に応じた研修の機会を確保し実践されている。また、内部研修の充実や外部研修参加を積極的に行い、ケアサービスの質の向上に取り組んでいる。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目		取り組みの成果 該当するものに 印	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の大切さ、意義はスタッフミーティングや申し送りの中で確認し合っている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、内部研修や日常業務を通じて理念を共有し、その実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の施設行事があれば、積極的に参加しており、今年は町内の生活安全パレードなど地域のイベントにも参加している。	地域に向けて「かわらばん」を発行し、法人の取り組みへの理解やヘルパー研修や実践研修等受け入れグループホームの機能を還元していると共に交流促進に取り組んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、町内会に働きかけて頂きながら、地域の方々にも支援していきたい。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、定期的実施している。今年度からは、市職員も参加頂き、より活発な意見交換を行い、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は、市担当者も出席して定期的開催し、認知症や老後の問題について家族を含めて話し合い、そこの意見を地域への働きかけやケアサービスの向上に活かしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域密着型などの事で分からない事は、市に聴いたり、確認を取るように努めている。	市担当者や包括支援センターとの連携の必要性を認識し、日常業務を通じて協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っておらず、日々の話し合いやミーティングの中で、職員全員に禁止行為を説明し、情報共有している。	管理者・職員は、身体拘束廃止や高齢者虐待防止について、内部研修を通じて正しく理解している。また、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフミーティング等でも、職員には伝えていている。身体状況など、職員間で注意を払っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は活用してはいない。家族・職員にも伝わりきれておらず、今後は情報伝達・共有できるように努める。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には本人・家族から希望、要望を聴いている。改定の際は家族会を開き不安・疑問に対し十分な説明を心掛けている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会・運営推進会議を定期的に関催、意見交換の場を設け、苦情・要望を書類に残している。	家族会の開催や運営推進会議に家族が多く参加できるような呼びかけを行い、意見や要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映するよう努めている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフミーティング・職場の教養など申し送りの時間に個々の意見を述べて話し合いを行っている。また、年2回の個別面談を実施している。	年2回の個人面談やスタッフミーティングを通じて職員の意見を取り入れた業務改善や要望に応じた研修の機会を確保し実践されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度より親睦会に加入。他施設の職員とも交流を図り、休憩時間も確保できるように改善。また、職員個々に自己評価・目標設定し年2回の面談にて、どこまで達成しているか分かる様にしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内は伝達し参加者を募ったり、推薦を積極的に行っている。内容については伝達を行い情報共有に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームへの訪問・意見交換、勉強会にも積極的に参加し交流できるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談では、本人・家族の希望や想いなど良く聴く様に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からよく話を聴く様にしており、意見交換や情報も共有に努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の本人や家族の想いを確認し、必要としている支援を見極め対応している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で本人の出来る事を行って頂いている。場面において、活躍できるように支援している。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報を共有し、一緒に本人を支援して行くよう関係作りに努めている。面会時間は設けておらず、合いたい時に来訪して頂いている。外出・外泊もその都度対応している。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の制限はなく、気軽に馴染みの方にも来訪して頂いている。	地域行事や近隣の喫茶店への訪問、会館での体操や母体施設の音楽療法にも毎週参加する等馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人間関係を把握し穏やかに過ごして頂いけるように配慮している。利用者同士の関係が上手にいくように職員が見守りを行うなど配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	担当の介護支援専門員や施設に状態を聞いたり、家族にも連絡を取りフォローに努めている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別の関わりを大切に、訴えや表情など本人の困っている事を援助するようにしている。	利用者や家族等の一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向など把握に努めている。また、センター方式を活用して、職員間で情報の共有が図られている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式などを活用し本人や家族から情報を集め生活習慣・リズムの把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日2回の申し送りやノートなどの活用で利用者状況の把握に努め、職員同士で話し合いをしている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望を取り入れ、介護計画は職員全員で作成している。急変時など現状のプランに沿わない時は随時変更し、家族にも確認している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人の思いや家族の意向も採り入れている。また、カンファレンスやミーティングを通じて介護計画に職員の意見も反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿って記録をして利用者の生活状況の把握に努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院その他の外出支援を行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人保健施設の音楽療法に毎週参加し、利用者も楽しみにしている。他施設と合同の行事を企画し参加、交流を図っている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を聞き、状態に応じて適切な医療を受けられるよう支援している。希望するかかりつけ医となっている。	受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、医師による往診や看護師との連携で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携や訪問看護など、密な相談を行い医療的な対応・助言・指導を頂いている。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師とは、日頃から医療処置や相談援助を受けながら行っている。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の体調・状態を見守り、本人・家族の想いを確認し支援の方法を医師や職員間で話し合い柔軟な対応を行っている。	ターミナルケアを実践し、早い段階から本人、家族等と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を共有し、医師と連携している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを常に見える場所に置いてある。また、見える位置に置いてあるか常に確認している。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施している。施設外の方にも参加頂き、気付いた点など意見を頂き、より良い対応にしている。	緊急時に速やかに対応ができるように地域住民も参加した避難訓練を実施している。	今後は、地震や水害、火山の噴火等の大型災害について検討しているので、シュミレーションを含めた体制整備に期待します。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個人への対応や、他の利用者へ影響を与える事を認識し、支援するように努めている。	法人内で継続的な研修が行われ、本人の誇りやプライバシーを損ねることのないように周知している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に応じた言葉かけを行っている。本人が決定できるような対応・分かりやすい言葉かけに努めている。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その都度希望を良く聞き、様子を見守っている。本人に沿う生活を支援している。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着るものを自分で選んでもらったり、一人一人に合う服装を支援している。訪問理美容では本人の希望を伝えられる様に配慮している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のできる事を把握し、食事の準備など楽しく行えるよう工夫している。	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、毎日の調理や食事準備等楽しみながら支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表を作成し、摂取量を管理・把握している。食事は栄養士と相談している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事は美味しく食べて頂く為に、口腔内の清潔確認や介助をしている。義歯は夜間に洗浄剤に付けている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握している。トイレで排泄できるように時間を見計らい介助している。	声掛けや誘導等一人ひとりの力を活かしながら、排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックをして、主治医と相談し下剤などの調整を行っている。また、腹部のマッサージや水分にも気を付けている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は決まっているが、仲の良い入居者同士入浴して頂いている。夏は週3回、以外は週2回入浴して頂いている。	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、週2～3回を目安に入浴を楽しめるように支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の睡眠パターンを把握するように努めている。就寝の声掛けはなるべく避け、日々の精神状態も踏まえて対応している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の綴りを作成し個別の服薬が分かるようにしている。また、Drや薬剤師にも相談している。週1回看護師のラウンド実施している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式などで、個別で発揮できることや楽しみ等を把握している。職員と共に過ごし楽しんで頂けるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の散歩では、個別に合わせてシルバーカーや車椅子など使用している。希望時には買い物に出かけている。	関連施設での音楽療法や体操参加、地域の行事参加で地元の人々との交流や日常の散歩、買い物等で戸外に出かけられるよう支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理している方は少ないが、買い物などではなるべく本人に支払いをして頂いている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話を設置している方もいる。電話の希望があれば応じている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールソファや椅子の位置は入居者の利用しやすいように配慮し、各居室にはトイレがあり入居者や家族にも喜ばれている。夏にはウッドデッキを活用している。	夏にはウッドデッキを活用し、外気浴や季節感を味わえるような支援や廊下の椅子やリビングのテーブルの配置で一人になったり、談笑できるスペースを確保し、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールソファでは入居者同士の会話の場になっている。廊下に椅子・テーブルを設置、そこで過ごす入居者もいる。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を居室に置いてもらっている。家族や本人の写真を飾ったり、植木鉢などを置いている入居者もいる。	居室は、和室の畳敷きの部分があり、仏壇や横になれるスペースとして活用している。また、本人や家族と相談しながら使い慣れた家具や家族との思い出の写真など持ち込まれ居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる事出来ない事シートを三カ月毎に作成、それを基に自立支援を検討している。居室トイレをスイングバーを適宜使用し、脱衣所では移動式の手すりを使用している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ひまわり

作成日: 平成 23年10月21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	地域との連携による防災対策。	今年度末にはスプリンクラー工事を施工し設置する予定。 近隣の方に防災訓練や非常時の対応を共同で行っていく。	日々のコミュニケーションや運営推進会議に定期的に参加頂き、GHの取り組みや防災時の動きなど説明し、関係づくりを行っていく。	12ヶ月
2	8	権利擁護の周知は、研修など実施しておらず、今後制度の理解・周知を行っていく。	生活自立支援事業や成年後見制度を理解し活用に向けて学びの機会を持つ。	職員研修会を開催する。また、運営推進会議や家族会の中でも取り上げ、家族にも理解を求めて行く。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。